

【令和7年度 第77回 日本ハンドボール選手権大会 第11回 九州ブロック予選】

(開催地：大分県)

競技上の注意と確認事項

1 競技規則

本大会は、令和7年度(公財)日本ハンドボール協会「競技規則」によって行う。

※改訂版(2025年7月1日施行)を適用する。

2 競技会場

(1) 競技会場・コートの広さは、以下のとおりとする。

○クラサス武道スポーツセンター(2面)(40m×20m)

※松やにの使用を禁止、『両面テープ』のみ使用を認める。

(2) 別紙「会場使用上の注意」を遵守して使用する。

3 種別及び参加人数

参加人数は、役員6名以内・選手18名以内の合計「24名」以内とする。

ベンチ入りは、役員5名以内・選手16名以内の合計「21名」以内とする。

ベンチ入りする役員および選手は、トス時に「エントリー用紙を提出し」関係役員に申告する。

4 競技方法

競技方法は、トーナメント及びリーグ戦の方式から代表決定戦とする。

すべての試合で正規競技時間終了後、同点の場合は、下記により勝敗を決定する。

○「第1延長」→「第2延長」→7mTC(5名)」により、勝敗を決定する。

○第1延長は、「後半終了後→5分休憩→即トス→前半5分→休憩1分→後半5分」とする。

○第2延長は、「第1延長終了後→5分休憩→即トス→前半5分→休憩1分→後半5分」とする。

リーグ戦の順位決定は、勝点方式とし、以下の通りとする。

予選リーグ及び決勝リーグは勝点方式とし、引き分けは、なしとする。

【「正規競技時間内での勝利:2点」、「延長戦および7mTCでの勝利:1点」、「敗戦:0点」】

予選リーグの順位決定は、下記のとおりとする。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">① 勝ち点の多いチームを上位とする。② ①で決定できない場合は、チーム間の対戦結果で勝ちチームを上位とする。③ ②で決定できない場合は、「正規競技時間内」の総得失点差が大きい方を上位とする。④ ③で決定できない場合は、「正規競技時間内」の総得点の多いチームを上位とする。⑤ ④で決定できない場合は、「正規競技時間内」の総失点の少ないチームを上位とする。⑥ ⑤で決定できない場合は、抽選により決定する。 |
|---|

5 参加資格

参加資格は、「実施要項 10参加資格」(1)～(2)のとおりとする。

臨時トレーナーについては、別に定める。(16 臨時トレーナーを参照)

6 競技日程・時間

- (1) 競技日程は、プログラムのとおりとする。
- (2) 競技時間は、全種別ともに下記のとおりとする。
「前半30分－休憩 15 分－後半30分」なお、同点の場合は、延長戦を正規で行う。(4 競技方法を参照)
- (3) 競技時間は、加算式の退場表示のついた電光掲示板で表示する。
- (4) 競技終了やチームタイムアウトの合図は、ブザー・ホーン、または笛で行う。
- (5) ①退場者の番号と入場時間は電光掲示板で表示する。
②入場の判断は、チームの責任である。記録席から合図することはなく、問いかけても回答しない。

7 大会使用球 (公財) 日本ハンドボール協会検定球を使用する。

- 男子:モルテン社 3号球 H3A5000-B
- 女子:モルテン社 2号球 H2A5000-B

8 トス・ユニフォーム

- (1) トスは、ユニフォーム確認の際に記録席前で行う。立ち合いは、チーム役員・選手のいずれでもよい。
その際、チーム役員の服装(色)及び臨時トレーナーの有無についても確認する。(11(5), 16(1)を参照)
- (2) ユニフォームの確認について、第1試合は、記録席前で試合開始30分前に行う。
以降の試合は、前試合のハーフタイムで行う。
確認の際には、試合に着用する全ての種類のユニフォームを持参する。
希望調整がつかない場合は、組合せ表によるチーム番号の大きいチームが変更する。
- (3) ユニフォームについては、下記のとおりとする。条件に満たない場合は当て布等で覆わなければならない。
その色はユニフォームと同色でなくてもよいが、チーム全員が同色とし、同じデザインにする。
 - ①番号の大きさ(高さ)は、胸10cm以上・背20cm以上とする。
 - ②基調色として、半分以上が同色でなければならない。例えば、左右上下対称色を用いたものは認めない。
 - ③メーカーのロゴは、20cm以内の目立たないものとする。サポーター等も同様とする。
 - ④試合中にユニフォームが破損したり、血液が付着したりして、競技を続行できない時は、別のユニフォームに着替えなければならない。その場合は、同番号でなく異なる番号でも問題ない。また、交代地域にいる別のプレーヤーのユニフォームと交換することも許される。
 - ⑤チームは、ユニフォームとして「シャツ・パンツ・ソックス」の色をそれぞれ統一すること。ソックスは、色が揃っていればよく、メーカーのロゴなどは問わない。
- (4) ゴールキーパー
 - ①チームで同色とする。
 - ②コートプレーヤーがゴールキーパーに代わる場合は、登録された同じ番号でなければならない。
併せて、登録されたゴールキーパーと同色のユニフォームを着用することは許される。
- (5) 身につけられるものについて
 - プレーヤーはユニフォームの下に、パワーパンツ、コンプレッション ショーツ、インナーハーフパンツ、レギンス、長そでなどのウェアを使用できる。
ユニフォームの外に見える場合は、以下の規定が適用される。
 - アンダーシャツは、ユニフォーム(シャツ)の大部分を占めている色と同色であれば使用できる。
 - サイクリングパンツなどユニフォーム(短パン)の下に履くものは、ユニフォーム(短パン)の大部分を占めている色と同色であれば使用できる。ただし、黒色は例外として、ユニフォーム(短パン)の色とは関係なく使用できる。
 - ※ 例) チームのユニフォーム(短パン)が白色の場合、白のサイクリングパンツをはいているプレーヤーと黒色のサイクリングパンツをはいているプレーヤーが混在していても差し支えない。
 - アンダーシャツの色は、チームで統一された色でなければならない。
 - すべてのプレーヤーは靴下を履かなければならず、その色はチームで統一された色でなければならない。

- 膝下の装具（例えばふくらはぎへのコンプレッションスリーブ、足首の装具など）は、靴下と同色であること（国内では、足首の装具については、靴下と同色でなくてもよい）。
 - 肘や膝の装具（1カ所のみを保護する装具）の色は問わない。
- 詳細は、JHAホームページ「JHA保護を目的とした装具」を参照すること。

9 登録証・公認資格証とチーム役員・選手の確認

- (1) 事前に所定の手続きを完了した登録証のあるチーム役員・選手のみが競技に参加・出場することができる。
- (2) 交代地域には、チーム責任者1名を含む**チーム役員5名以内、選手16名以内の合計21名以内**が入ることができる。ベンチ入りする役員と選手は、トス時にエントリー申告する。
- (3) チーム役員・選手の変更については、**9月4日(木)17時**までに変更申請が完了したことで決定する。
変更があった場合は、**メール等で関係者に周知する。**
- (4) ①トスの際には、TOに登録証を提出する。不備（写真添付なし等）があった場合は、試合に出場できない。
チーム役員は、公認資格証も提出する。（※努力事項とする。）
②TOが、試合前に交代地域にてチーム役員・選手及び登録証を確認する。
試合中は、TOが登録証を管理し、試合終了後にTOから両チーム代表者に返却される。
③失格したチーム役員・選手、または、裁定委員会に提訴されるチーム役員・選手には、その場で返却しない。
- (5) チーム役員は、試合中に大会主催者が準備した**カード**を着用し、試合終了後に返却する。
チーム責任者は、「Aカード」を着用する。

10 公式記録用紙

- (1) 記録は、(公財)日本ハンドボール協会「公式記録用紙」（ランニングスコアなし）を使用する。
- (2) チーム責任者は、試合開始前に公式記録用紙に記載されている「役員氏名・選手氏名・背番号」など、責任を持って確認し、サインをする。
- (3) 公式記録用紙に記入されている者だけが、交代地域に入ることができる。

11 交代地域

☆交代地域：「3.5mラインを始点とし、それぞれのアウターゴールラインから8mの位置を終点とする」

- (1) 各チームのボール等の用具類は、競技開始前にケース等に収納して交代地域内にて管理する。
競技開始後は、ボールに触れることを含めてボールの使用を禁止する。
- (2) 交代地域では、通信機器の使用を認める。
詳細は、JHAホームページ「交代地域に持ち込み可能な技術的機器に関するガイドライン」を参照する。
- (3) 試合中、選手が交代地域内で簡単な準備運動をすることは認める。
ただし、ボールの使用やコート内への指示・応援、立位のままで観戦することは不可とする。
- (4) チーム役員は、相手チームのコートプレーヤーと異色の服装でなければならない。
トスの際、ユニフォームの色が確定した後に、役員の服装の色を確認する。
- (5) チーム役員は、原則として座っていなければならない。
ただし、チーム役員1名のみが、戦術的な指示や治療を目的として、交代地域の範囲内で動くことは許される。
- (6) 観客席等から選手への指示や審判のジャッジに対する暴言等は厳禁とする。

12 チームタイムアウト

- (1) チームタイムアウトの請求は、全試合1試合で3回請求することができ、前半後半にそれぞれ最高で2回まで請求することができる。また、後半の残り5分間は1回しか請求できず、延長戦は請求できない。
- (2) チームタイムアウト請求カード（グリーンカード）は、チーム役員だけが提出することができる。
請求する場合は、記録席まで持参する。提出するために、コーチングエリア（3.5m）を越えたらグリーンカードを提出しなければならない。躊躇することは許されない。ただし、請求および受け取りと判定のタイミングにより、チームタイムアウトにならない時があるので、その場合は、グリーンカードをチームに戻す。

(3) グリーンカードは、常にベンチに置いておかなければならない。請求する時のみ、持つことが許される。

(4) グリーンカードは、TO が直接受け取ってよい。

13 休憩時間（ハーフタイム）

(1) 休憩時間のコートは、次試合を行うチームが練習として使用して良い。

(2) 練習で使用する時間は「15分」とし、残りの時間は、後半に向けたコート整備の時間とする。

タイマーは、「15分の減算表示」とし、14分を経過した時点でブザーにより通知をするので速やかにコートアウトする。

14 テクニカルオフィシャル（マッチオフィシャル：MO、テクニカルデレゲート：TD）、裁定委員会

(1) 本大会は、各試合にMO兼TD1名とTD1名の2名を配置する。MO・TDは、各試合に立ち会い、各試合を円滑に運営するため、審判員・全競技役員・補助員と協力して試合を管理する。

(2) 本大会に裁定委員会を設置する。委員は、競技委員長・競技副委員長（競技委員）・審判長・副審判長とする。

なお、必要に応じて関係者を同席させることがある。裁定しなければならない事案が発生した場合は、当日中に裁定して関係者に通知する。

15 次の試合のチーム役員・選手のフロアへの入場

次試合のチーム役員・選手は、前試合が終了し、両チームの役員・選手がコートアウトし、フロアに入場する。

前試合が行われているのに、アップや試合に備えて、コートサイドに入って準備をしたり、観戦したりすることがないように留意する。

16 臨時トレーナー

(1) 臨時トレーナーとは、役員登録をしていない公的資格を有するトレーナーを指す。

トスの際には、必ずMO・TDに申告する。席は、交代地域から離れた場所に設置する。

(2) 臨時トレーナーは、交代地域やコート内に立ち入ることや応援・指示はできず、自席での対応のみとする。

選手は、一時的に交代地域から許可なく離れ、臨時トレーナー席で治療等を受けることができる。

(3) MO・TDが、試合開始前にトレーナーである資格証の提示を求める場合があるので準備しておく。

17 負傷者カード（今大会は、すべての試合で適用）

(1) コート上で治療を受けたプレーヤーは、速やかにコートから出なければならない。その後、そのプレーヤーは、自チームが3回の攻撃を終了するまでコートに戻ることはできない。これを表示するため、負傷者カードを記録席に表示する。3回の攻撃が終了し、コートへ戻る事が可能になったら、このカードを取り除く。

(2) 延長戦を含めて前半・後半が終了したら、3回の攻撃回数が終了していなくても、次の開始時点からコートに入場できる。

18 表彰

競技2日目の最終試合終了に優勝・準優勝の表彰を行う。

※閉会式に参加できない男子・女子決勝進出のチームは試合終了後に本部に申し出ること。

19 危機管理

各チーム・各個人で危機管理意識を高く持ち、各種の緊急事態に備える。

20 救護スタッフについて

今大会は、大会救護スタッフを配置しない。各チームで対応すること。

21 試合の開始と終了

開始時は、選手全員が交代地域から横1列で入場して、あいさつをする。

試合終了時は、コート中央に横1列で並んであいさつをし、その後、相手チームと交差しながら挨拶を交わし、相手側交代地域で役員へのあいさつを行う。

22 入館・観客席

(1) 今大会は、スポーツ競技活動を通じた社会活動の一場面でもある。各チームの役員は、「競技上の注意」「会場使用上の注意」などを徹底させる。

(2) 第1試合に対戦するチームの入館時刻は、開催地から発出される「会場使用上の注意」を参照する。

(3) 競技会場内でチームから出たごみ等は持ち帰るものとする。

23 申込チームの欠場（辞退）の場合

(1) 欠場（辞退）による代替出場は行わない。

(2) 試合記録は、欠場（辞退）のチームの不戦敗とし、スコアは0-16とする。

(3) 競技日程・試合開始時刻などは、原則として変更しない。